小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

Ver 3

国立感染症研究所　感染症疫学センター

注1）　本スケジュール案は、2013年6月現在、接種可能な主なワクチンをすべて受けると仮定して1例を示したものです。接種の順番や受けるワクチンの種類については、お子様の体調や周りの感染症発生状況によって、異なってきます。詳しくはかかりつけの医療機関、保健所等でご相談ください。

注2）　接種に際しては次の決まりがあります。スケジュールを立てるときの参考にしてください。別の種類のワクチンを接種する場合は、以下のように接種することになっています。
「生ワクチンの接種後は、中27日（いわゆる4週間）以上あけて受けます。（例：月曜日に接種したら次は4週間後の月曜日以降に受けます。）」
「不活化ワクチン接種後は、中6日（いわゆる1週間）以上あけて受けます。（例:月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。）」

2013年6月14日改訂

© Copyright 2013 IDSC All Rights Reserved. 無断転載・改編を禁ずる。

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

2013年6月14日現在

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

＊ 2013年6月14日の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会での検討により、現在、積極的な勧奨は差し控えられています。ただし、定期接種としては接種可能です。

※ 日本小児科学会推奨案

生ワクチン　別の種類のワクチンを接種する場合は、中27日（いわゆる4週間）以上あけて受けます。（例:月曜日に接種したら次は4週間後の月曜日以降に受けます。）

不活化ワクチン　別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日（いわゆる1週間）以上あけて受けます。（例：月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。）

不活化ワクチン　別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日（いわゆる1週間）以上あけて受けます。（例：月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。）

● 注射の生ワクチン

○ 注射の不活化ワクチン

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

注） 本スケジュール案は、2013年6月現在、接種可能な主なワクチンをすべて受けると仮定して1例を示したものです。接種の順番や受けるワクチンの種類については、お子様の体調や周りの感染症発生状況によって、異なってきます。詳しくはかかりつけの医療機関、保健所等でご相談ください。

制度	学年	小学校1年生	小学校2年生	小学校3年生	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生	高校1年生相当年齢	高校2年生相当年齢	高校3年生相当年齢
	年齢	6～7歳	7～8歳	8～9歳	9～10歳	10～11歳	11～12歳	12～13歳	13～14歳	14～15歳	15～16歳	16～17歳	17～18歳
定期接種	DT（ジフテリア・破傷風）					○（11歳以上13歳未満で1回）							
定期接種	日本脳炎				○（9歳以上13歳未満で1回）：第2期								
定期接種	日本脳炎	※平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれで**4回の接種**が終了していない場合は、4歳以上20歳未満で決められた接種間隔で足りない回数分接種 なお、平成25年度に7～10歳となる者への第1期初回接種と追加、18歳になる者への第2期は積極的勧奨の対象となります。											
定期接種	HPV＊（ヒトパピローマウイルス）2価または4価						注（＊）○○○ 小6～高1相当年齢の女性：決められた接種間隔で（3回接種）						
定期外接種（任意接種）	水痘	●	● 4週以上の間隔をあけて2回接種（2回の接種が終了していない場合は足りない回数分をこの期間に接種）										
定期外接種（任意接種）	おたふくかぜ	●	● 4週以上の間隔をあけて2回接種（2回の接種が終了していない場合は足りない回数分をこの期間に接種）										
定期外接種（任意接種）	インフルエンザ	○○ 毎年10～11月に2～4週の間隔で2回接種（1回目と2回目は、できれば3～4週間空ける）。遅くとも12月中旬までに2回目の接種を終了させる。							●または○○（13歳以上は、毎年10～11月に1回（または1～4週間間隔で2回）遅くとも12月中旬までに接種を終了させる。				
定期外接種（任意接種）	B型肝炎※	○○○（4週間隔で1回、20～24週を経過した後に1回）３回接種（1回 0.25ml）					○○○（4週間隔で1回、20～24週を経過した後に1回）３回接種（1回 0.5ml）						
定期外接種（任意接種）	A型肝炎					○○○（2～4週間隔で2回、24週を経過した後に1回）3回接種							

接種回数

ワクチンの接種	接種回数
DT（ジフテリア・破傷風）	1回
日本脳炎	1回
日本脳炎	4回（不足分）
HPV＊（ヒトパピローマウイルス）2価または4価	3回
水痘	2回※（不足分）
おたふくかぜ	2回※（不足分）
インフルエンザ	毎年2回または1回
B型肝炎※	3回
A型肝炎	3回

© Copyright 2013 IDSC All Rights Reserved. 無断転載・改編を禁ずる。

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

2013年6月14日現在

＊ 2013年6月14日の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会での検討により、現在、積極的な勧奨は差し控えられています。ただし、定期接種としては接種可能です。

※ 日本小児科学会推奨案

生ワクチン	別の種類のワクチンを接種する場合は、中27日（いわゆる4週間）以上あけて受けます。（例:月曜日に接種したら次は4週間後の月曜日以降に受けます。）
不活化ワクチン	別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日（いわゆる1週間）以上あけて受けます。（例：月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。）
不活化ワクチン	別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日（いわゆる1週間）以上あけて受けます。（例：月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。）
●	注射の生ワクチン
○	注射の不活化ワクチン

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

お子様のスケジュールを書き込んで下さい。

お子様の氏名		生年月日	年　月　日

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

注） 本スケジュール案は、2013年6月現在、接種可能な主なワクチンをすべて受けると仮定して1例を示したものです。接種の順番や受けるワクチンの種類については、お子様の体調や周りの感染症発生状況によって、異なってきます。詳しくはかかりつけの医療機関、保健所等でご相談ください。

制度	学年	小学校1年生	小学校2年生	小学校3年生	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生	高校1年生相当年齢	高校2年生相当年齢	高校3年生相当年齢
	年齢	6～7歳	7～8歳	8～9歳	9～10歳	10～11歳	11～12歳	12～13歳	13～14歳	14～15歳	15～16歳	16～17歳	17～18歳
定期接種	DT（ジフテリア・破傷風）												
定期接種	日本脳炎												
定期接種	HPV ＊（ヒトパピローマウイルス）2または4価												
定期外接種（任意接種）	水痘												
定期外接種（任意接種）	おたふくかぜ												
定期外接種（任意接種）	インフルエンザ												
定期外接種（任意接種）	B型肝炎※												
定期外接種（任意接種）	A型肝炎												

接種完了チェックリスト

ワクチンの接種	接種回数	ワクチンを接種したら、接種した年月日を書き込んで下さい			
DT（ジフテリア・破傷風）	1回				
日本脳炎	1回				
日本脳炎	4回（不足分）				
HPV ＊（ヒトパピローマウイルス）2価または4価	3回				
水痘	2回※（不足分）				
おたふくかぜ	2回※（不足分）				
インフルエンザ	毎年2回または毎年1回	隣の表をお使い下さい→ 6～12歳迄は毎年2回 13歳以降は毎年1回			
B型肝炎※	3回				
A型肝炎	3回				

インフルエンザ

ワクチンを接種したら、接種した年月日を書き込んで下さい

7歳		
8歳		
9歳		
10歳		
11歳		
12歳		
13歳		
14歳		
15歳		
16歳		
17歳		
18歳		

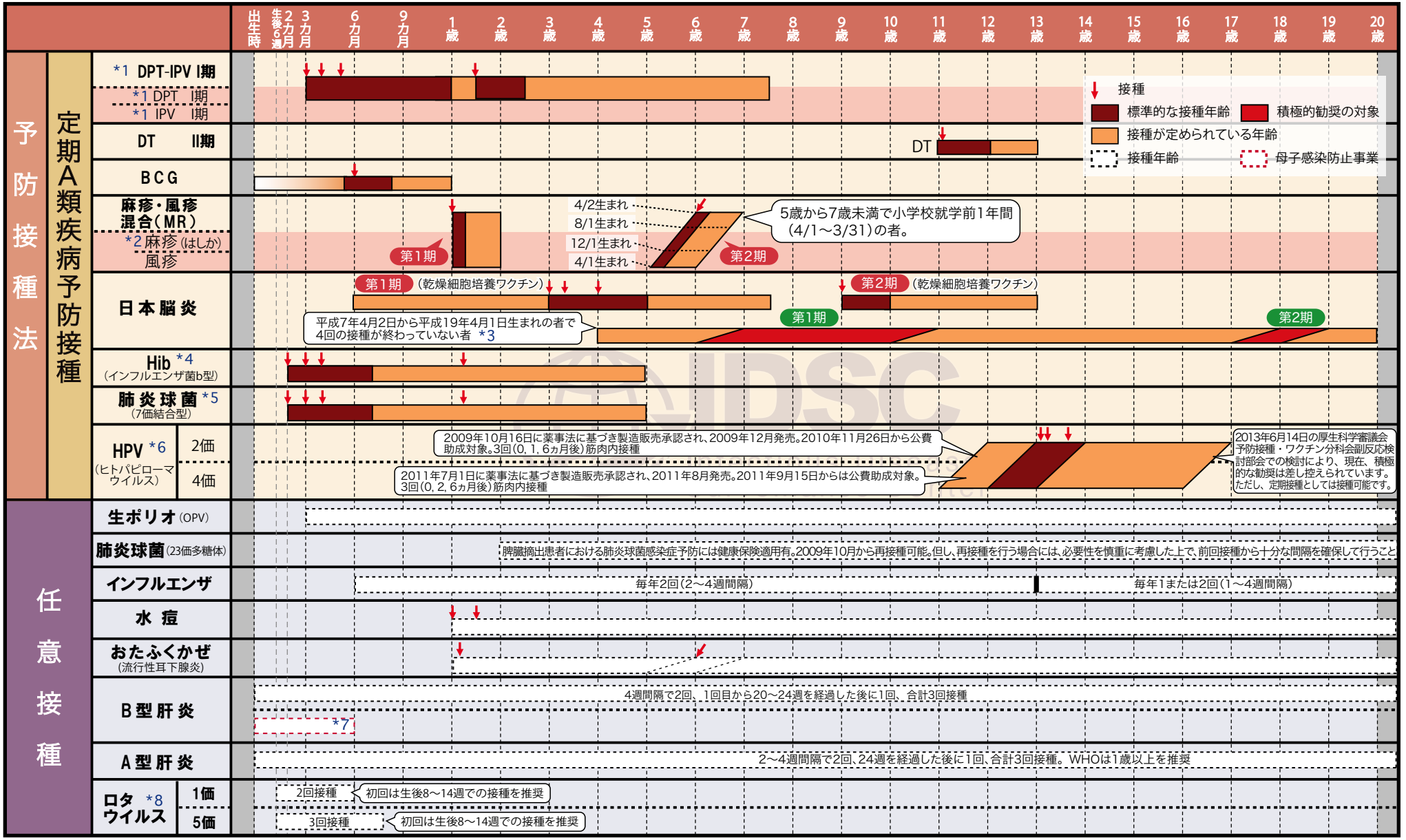
© Copyright 2013 IDSC All Rights Reserved. 無断転載・改編を禁ずる。

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

ver. 2013.06.14

日本の定期/任意予防接種スケジュール（20歳未満）（平成25年6月14日以降）

2013年6月14日現在



*1 D:ジフテリア、P: 百日咳、T:破傷風、IPV: 不活化ポリオを表す。IPVは2012年9月1日から、DPT-IPV混合ワクチンは2012年11月1日から定期接種に導入。回数は4回接種ですが、OPV(生ポリオワクチン)を1回接種している場合は、IPVをあと3回接種します。OPVは2012年9月1日以降定期接種としては使用できなくなりました。IPVで接種を開始した場合、DPT-IPVで接種を開始した場合は、それぞれ原則として同じワクチンで接種を完了します。

*2 原則としてMRワクチンを接種。なお、同じ期内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンを接種。

*3 第1期・第2期で受けそびれていた人も、平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの人は、20歳未満であれば特例対象者として残りの回数を定期接種として受けられます。なお、平成25年度に7歳、8歳、9歳、10歳となる者への第1期、18歳となる者への第2期は積極的勧奨の対象となります。

*4 2008年12月19日から国内での接種開始。生後2ヵ月以上5歳未満の間にある者に行うが、標準として生後2ヵ月以上7ヵ月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、4～8週間の間隔で3回皮下接種（医師が必要と認めた場合には3週間間隔で接種可能）。接種開始が生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合は、通常、4～8週間の間隔で2回皮下接種（医師が必要と認めた場合には3週間間隔で接種可能）。初回接種から7～13ヵ月後に，1回皮下接種。接種開始が1歳以上5歳未満の場合、通常，1回皮下接種。

*5 2009年10月16日に薬事法に基づき製造販売承認され、2010年2月24日から国内での接種開始。生後2ヵ月以上7ヵ月未満で開始し、27日間以上の間隔で3回接種。追加免疫は通常、生後12～15ヵ月に1回接種の合計4回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで接種。生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合：27日以上の間隔で2回接種したのち、60日間以上あけてかつ1歳以降に1回追加接種。1歳：60日間以上の間隔で2回接種。2歳以上9歳以下：1回接種。

*6 定期接種の対象は小学校6年生（12歳になる年度）～高校1年生相当（16歳になる年度）の女子で、標準的接種年齢は中学1年生の間（13歳になる年度）。互換性に関するデータがないため、同一のワクチンを3回続けて筋肉内に接種。接種間隔はワクチンによって異なる。

*7 妊娠中に検査を行い、HBs抗原陽性（HBe抗原陽性、陰性の両方とも）の母親からの出生児は、出生後できるだけ早期及び、生後2ヵ月にHB免疫グロブリン（HBIG）を接種、ただし、HBe抗原陰性の母親から生まれた児の場合は2回目のHBIGを省略しても良い。更に生後2,3,5ヵ月にHBワクチンを接種する。生後6ヵ月後にHBs抗原及び抗体検査を行い必要に応じて任意の追加接種を行う（健康保険適用）。

*8 ロタウイルスワクチンは初回接種を1価で始めた場合は『1価の2回接種』。5価で始めた場合は『5価の3回接種』。1回目の接種は生後14週＋6日までに行うことが推奨されています。

© Copyright 2013 IDSC All Rights Reserved. 無断転載・改編を禁ずる。